

平成27年9月15日  
於：東京ガーデンパレス

日本高等教育評価機構  
平成28年度 大学・短期大学機関別認証評価 責任者説明会

# 認証評価における責任者の役割について — 一点検評価活動の実態と効用 —

中部大学 山下 興亜



CHUBU UNIVERSITY

## 1. 大学機関別認証評価受審への取り組み

- 1) 中部大学の現況
- 2) 本学の認証評価受審に向けてのコンセプト
- 3) 自己点検・評価と認証評価受審の体制

## 2. 自己点検・評価活動の成果

- 1) 自己点検・評価報告書の作成
- 2) 認証評価受審資料の収集、分析、編集成果
- 3) 自己点検評価書の作成
- 4) 実地調査への対応
- 5) 受審結果の共有

## 3. 大学機関別認証評価受審の成果と課題

- 1) 成果
- 2) 課題

# 1. 大学機関別認証評価受審への取り組み

## 1) 中部大学の現況(2015年5月1日)

### (1) 沿革、所在地、建学の精神

1964年4月開学 愛知県春日井市  
「不言実行 あてになる人間」

### (2) 教育研究組織体制

7学部30学科 大学院6研究科17専攻

### (3) 学生の状況

学部生:10,810人 大学院生:272人

### (4) 教職員の状況

教員(専任、含助手):528人 職員(専任):229人

### (5) 財務状況(2014年度)

帰属収入: 182億5千2百万円  
消費支出: 168億2千6百万円  
帰属収支差額: 14億2千6百万円

## 2) 本学の認証評価受審に向けてのコンセプト

- (1) 不断の自己点検・評価活動をベースに、認証評価受審の準備および体制づくり
- (2) 全教職員が受審活動に係わり、情報および課題等を共有する  
※自己点検評価書と評価結果を全教職員に配付
- (3) 受審にあたって、「自己点検評価書」のページ制限による説明不足は、エビデンス(資料)で補足する
- (4) 評価疲れをしない「評価風土」の醸成が目標

### 3)自己点検・評価と認証評価受審の体制

- (1) 自己点検・評価委員会(1993～、委員長:学長、22人)、  
同実施専門委員会(2005～、委員長:学監、28人)
- (2) 学部長・部長を中心として学部ごとの自己点検・評価を実施
- (3) 自己点検・評価推進室の設置(実務担当)  
室長:学監、室員3人(専任1、嘱託1、兼任1)
- (4) 認証評価受審資料「自己点検評価書」の作成体制
  - ① 統括責任者(4つの基準+1)の配置
  - ② 項目別責任担当者(基準項目22)の配置

## (5) 自己点検・評価の実施状況

2012年度 に実施

「自己点検・評価報告書 2012年度」の発刊  
それ以前には

2007年度、2003年度、1999年度 に実施

## (6) 認証評価受審に係る主な作業日程

① 認証評価受審を決定(大学協議会 2013年6月)

② エビデンスの収集、分析、整理

(2013年7月～2014年5月)

③ 「自己点検評価書」の作成(2013年7月～)

と提出(2014年6月)

④ 認証評価 実地調査(2014年10月)

⑤ 認証評価の受審結果の受領(2015年3月)

## 2. 自己点検・活動の成果

### 1) 自己点検・評価報告書の作成

- (1)「自己点検・評価報告書 2012年度」(15章574頁)の発刊、各部署に配備、Web上にて学内外に公表
- (2)「自己点検・評価報告書(要旨)2012年度」(点検評価課題の「評価」と「改善策」、18頁)を発刊、教職員全員に配付

### 2) 認証評価受審資料の収集、分析、編集成果

(2013年7月～)

- (1)エビデンス集(データ編 42項目383頁)
- (2)エビデンス集(資料編 780項目14ファイル、30セット)  
※受審資料一式は、主な幹部教職員(20人以上)にも配付

### 3) 自己点検評価書の作成(2013年7月～)

「平成26年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書」  
(本文100頁 エビデンス集一覧38頁)を作成し提出  
(2014年6月)、教職員全員に配付(同7月)

### 4) 実地調査(2014年10月)への対応

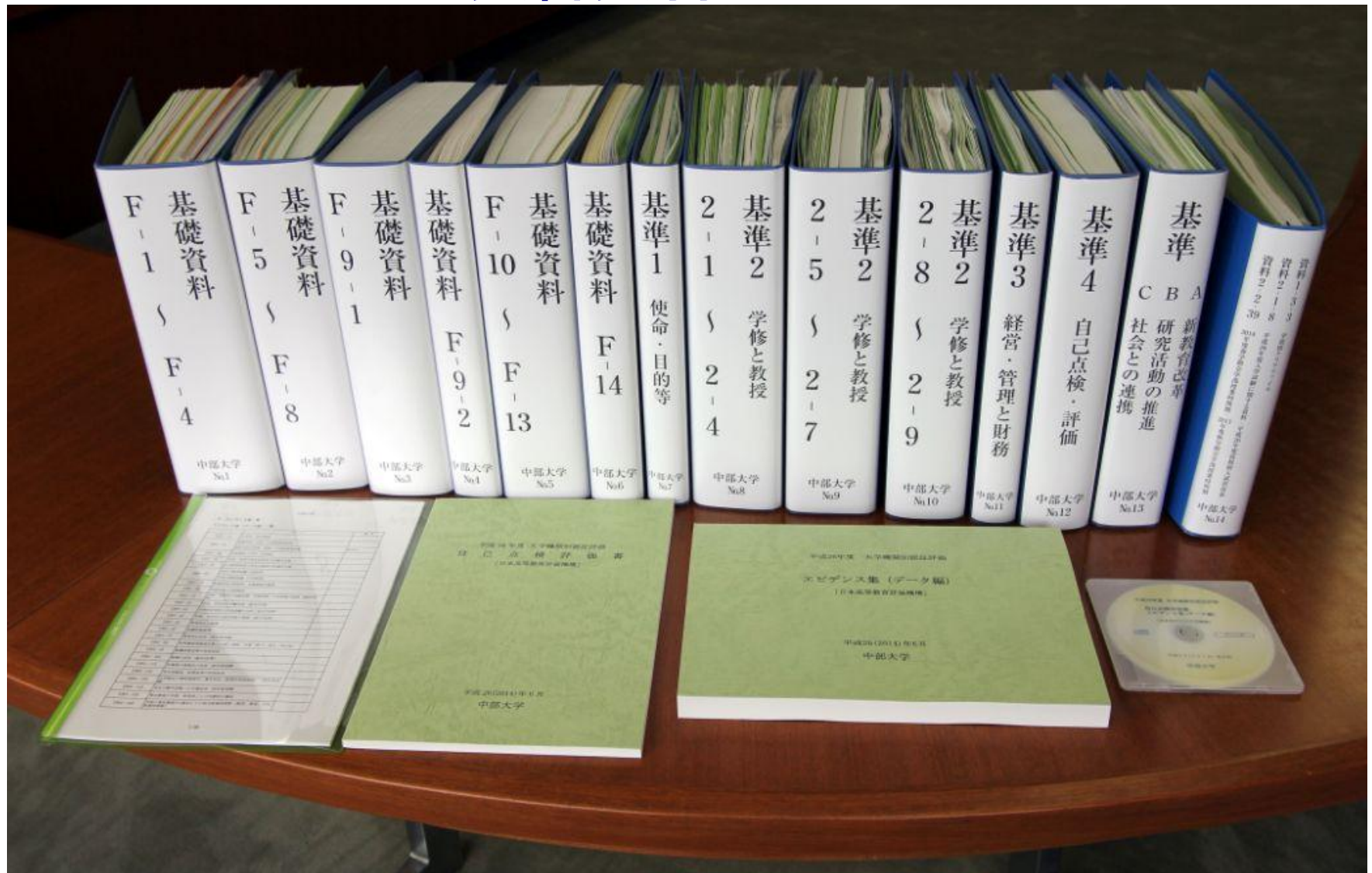
教職員69人、学生8人、後援会長等で対応

### 5) 受審結果の共有

受領した受審結果を基に「平成26年度 大学機関別認証  
評価受審結果」を発刊(2015年3月)し、教職員全員に  
配付(同5月)



# 受審資料一式



### 3. 大学機関別認証評価受審の成果と課題

#### 1) 成果

- (1) ほぼ予測どおりの認証評価結果により、自立的な大学改革に励みと自信
- (2) 定期的な自己診断で、基礎体力・知力の組織的な相互理解を増進
- (3) 執行部を含む関係者全員(学生、教職員、学外者)の参加により、大学評価活動の広がりが定着
- (4) 評価員の献身的な活動を評価し敬服

## 2) 課題

- (1) 窮屈な作業日程により「こなし作業化」の危惧
- (2) 大学独自基準の取り組みとその提案に対する評価のあり方
- (3) 大学の規模や組織体制等に配慮した多様な評価方法の展開を
- (4) 研究活動、社会貢献活動への切り込み

# おわりに

- **ピアレビュー活動の今後について、規定演技と自由演技の評価**
- **多数の評価員による評価の向上・普及により、大学評価文化の定着に期待**